

愛西市舗装長寿命化修繕計画

令和 6 年 12 月



愛西市 産業建設部 土木課

目 次

1. 舗装の現状と課題

1.1 管理道路の現状 1

1.2 舗装の現状 1

2. 舗装の維持管理の基本的な考え方

2.1 舗装管理の基本方針 1

2.2 管理道路の分類(グループ分け) 2

2.3 管理基準 2

2.4 点検方法・点検頻度 3

3. 計画期間 3

4. 対策の優先順位(補修計画の方針) 3

5. 舗装の状態、対策内容、実施時期 3

5.1 診断結果 3

5.2 対策内容と実施時期 3

1. 舗装の現状と課題

1.1 管理道路の現状

(1) 管理延長と舗装延長

道路区分	管理延長	舗装延長		舗装率
		A s 舗装	C o 舗装	
1 級市道	67.684 km	67.520 km	0.164 km	100.0%
2 級市道	92.207 km	91.400 km	0.495 km	99.7%
その他市道	833.557 km	750.732 km	1.698 km	90.3%
計	993.448 km	909.652 km	2.357 km	91.8%

※A s 舗装に簡易舗装を含む

1.2 舗装の現状

令和 3 年度に 1・2 級幹線道路約 160 km を巡視した結果、比較的路面状況が悪かった約 93.4 km の路面性状調査を実施した。そのうち MCI4.0 以下が約 38.4 km、41.2% という状況であった。

計画から 5 年が過ぎた令和 6 年 12 月現在、修繕できた延長はわずか 1.6 km (2.8%) であり予算も非常に厳しく、修繕が遅々として進んでいないのが現状である。今後は道路管理者としても本格的にメンテナンス、修繕に舵を切り、年間 12 千万規模の予算確保を目指し 3.0~4.0 km を修繕目標とし事業を進めていきたいと考えている。

2. 舗装の維持管理の基本的な考え方

2.1 舗装管理の基本方針

愛西市では幹線道路と位置付ける 1・2 級路線のうち主要な道路の舗装長寿命化修繕計画を策定し、測定車による路面性状調査、FWD 調査を行い舗装の損傷度、機能性を把握するとともに、その結果に基づいた維持修繕を行うことで、計画、修繕、調査、改善を一つとした、マネジメントサイクルの確立、定着させ、効果的かつ効率的な舗装修繕を行うことにより舗装の長寿命化や舗装の維持修繕費のライフサイクルコストの削減を目指します。

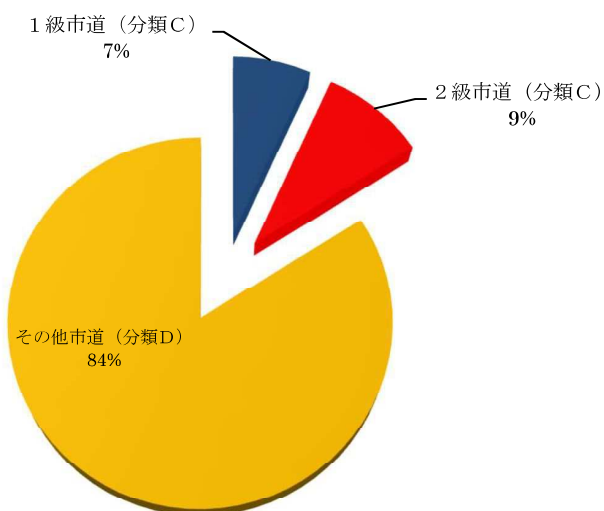
具体的な取り組みとしましては、日常のパトロールのほか、舗装の損傷度を定量的に把握することを目的とした路面性状調査を 5 年に 1 度のサイクルで実施します。

また、予防保全を基本とした修繕の実施。損傷が大きくなる前に予防保全型工法であるシーラ材注入やオーバーレイ等を実施し、舗装の長寿命化を図ります。

2.2 管理道路の分類（グループ分け）

分類	対象道路
分類Cの道路	1・2級幹線道路
分類Dの道路	上記以外の道路

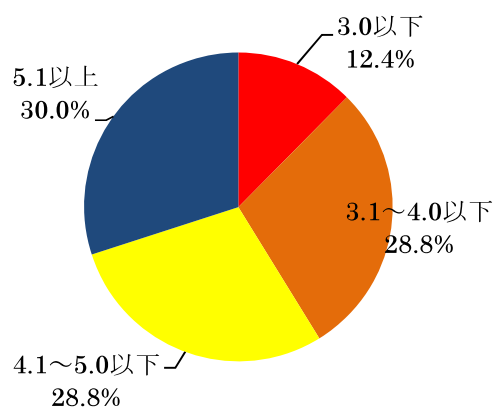
愛西市道管理区分（グループ分け）



2.3 管理基準

ひび割れ率	わだち掘れ量	MC I
40%以上	40 mm以上	4.0 以下

R3調査MCIランク別割合 （1・2級路線中95km）



MC I (Maintenance Control Index:維持管理指数)

路面特性を表すひび割れ率、わだち掘れ量、平坦性（横断凸凹）の3つの要因を組み合わせて舗装の破損程度を10点満点で総合評価した指数。

MC Iによる管理水準

3.0 以下	早急に補修が必要
3.1～4.0	修繕が必要
4.1～5.0	修繕することが望ましい
5.0 以上	望ましい管理水準

2.4 点検方法・点検頻度

	点検方法	点検頻度
分類Cの道路	路面性状調査	5年に1度
分類Cの道路	巡視の機会を通じた路面状況把握	
分類Dの道路	巡視の機会を通じた路面状況把握	

3. 計画期間

- ・当該道路長寿命化計画期間は、5年とする。

4. 対策の優先順位（補修計画の方針）

- ・舗装損傷状況、路線の重要性、交通量等を考慮し補修の優先順位を決定する。

5. 舗装の状態、対策内容、実施時期

5.1 診断結果

- ・令和3年度に点検した93.4kmの診断結果は以下のとおり

	区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅲ		
				Ⅲ－1	Ⅲ－2
分類C (93.4 km) の道路	54.9km	26.9km	11.6km	7.9km	3.7km

5.2 対策内容と実施時期

- ・別図のとおり（区間、箇所毎の図表により明示）